

## 第22回 総合防犯設備士資格認定試験問題

### B 問題解答例



公益社団法人 日本防犯設備協会

選択する場合は右空欄に○  
印を付ける。

B 問題－1（機器関連）

解答例

出入管理システムについて、記入例にならって、4種類の認証端末とその特徴を記せ。  
特徴については、長所と短所をそれぞれ一つ記すこと。

【解答欄】

番号	認証種類	認証端末	特徴（長所及び短所）
①	本人しか 持っていない 所有物による 認証	スマートフォンによる認証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機能的に社員証や学生証等の兼用も可能である。</li> <li>・認証媒体として、スマートフォンやタブレットが必要となってしまう。</li> </ul>
		非接触 カード／タグ 認証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の入退室の履歴を記録することが可能である。</li> <li>・非接触カードの場合は、券面印刷が必要な証書（社員証・学生証など）との兼用も可能である。</li> <li>・認証媒体として、非接触カード／タグが必要である。</li> </ul>
③	本人しか 知らない情報 による認証	テンキー認証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暗証番号を覚えておけば非接触カードやタグが不要である。</li> <li>・鍵や非接触カードの紛失、盗難、複製による不正な解錠を防止できる。</li> <li>・個人の入退室の履歴を記録できない。</li> <li>・暗証番号の覗き見により他人に知られると、不正侵入される恐れがある。</li> </ul>
④	本人しか 持っていない 身体的な特 徴による認証	指紋認証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暗証番号忘れ、非接触カードの紛失・盗難リスクがない。</li> <li>・指紋は年月を経ても変化しない。</li> <li>・指紋が薄いなどの理由で読み取れない場合がある。</li> </ul>
⑤		静脈認証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静脈パターンは大きさ以外、成長・老化によらず生涯変わらない。</li> <li>・静脈は体内の器官であり、偽造は非常に困難である。</li> <li>・手袋装着では認証不可能である。</li> </ul>
⑥		顔認証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カメラの前に立つだけなので、心理的な抵抗感が少ない。</li> <li>・ハンズフリーでの認証が可能で、衛生面での心配がない。</li> <li>・サングラスをかけたり目を閉じたり、毛髪で目が隠れたりして顔の特徴が撮影できないと認証できない場合がある。</li> </ul>
⑦		虹彩認証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目の虹彩の特徴点照合であり、年を取っても変化することがなく、偽造も困難である。</li> <li>・カメラの前に立つだけなので、心理的な抵抗感が少ない。</li> <li>・ハンズフリーでの認証が可能で、衛生面での心配がない。</li> <li>・目の細い人は認証しにくい場合がある。</li> </ul>

選択する場合は右空欄に○  
印を付ける。

B 問題－2（防犯設備の施工）

解答例

【解答欄】

①	<p><u>検知器の配置・位置決めについて</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・設計図書と現場の状況を精査し、設置位置を決定する。変更する場合は、設計者へ報告すること。</li><li>・仕様書や取扱い説明書を精査し、有効な検知範囲が確実にとれるよう設置場所を決定する。</li></ul>
②	<p><u>設置工事、結線について</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・フェンス内側の警戒は、飛越え侵入にも対応できるようクリアゾーンを確保して配置のこと。</li><li>・検知器取付用支柱は、コンクリート土台にアンカーボルトなどで確実に施工すること。</li><li>・検知器への配線（結線）は、ジョイントボックス内で施工し、外部から配線そのものが見えないように保護すること。ジョイントボックスには、タンパ機能を付加すること。</li></ul>
③	<p><u>検知器の光軸調整について</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・検知器の光軸の高さは、現場の実態を踏まえて設置すること。</li><li>・光の干渉、回り込み、外来光、太陽光の反射、車両のヘッドライトなどの対策を現地で講じること。講じた場合は、規定の感度余裕があるかを確認すること。</li><li>・太陽光などが検知器へ入光しないよう調整する。また、季節ごとの調整も必要。</li></ul>
④	<p><u>降霜、濃霧による誤報対策について</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・検知カバーに霜が付着しないようヒーターを検知器に内臓するか、外付けヒーターを装着する。電源容量に注意すること。</li><li>・検知器のカバーに霜が付着しないよう検知器にフード（庇）を設ける。</li><li>・感度余裕の減衰を考慮し、長距離仕様の検知器を選定する。</li><li>・光軸のずれが生じないよう保守点検、調整を実施すること。</li></ul>
⑤	<p><u>小動物などによる誤報、侵入対策について</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・犬、猫、鳥、など小動物対策、周囲環境を踏まえて設置すること。</li><li>・塀の上部に設置する場合、鳥や猫が発報の原因にならないよう検知器の位置を塀の天端の内側に設置すること。</li></ul>
⑥	<p><u>調整・試験・取り扱い説明について</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・植木、荷物、車などで遮光されないようにすること。検知ゾーンでの植栽の手入れ等も考慮し、施主の日常の管理に組み込むよう管理者に引き継ぐこと。</li><li>・サージアブソーバ（SPD）などの落雷対策を講じること。</li></ul>

選択する場合は右空欄に○ 印を付ける。	
------------------------	--

**B 問題－3（警備関連）** **解答例**

1. 警備業務の契約前書面交付義務について、「警備業者は、警備業務の依頼者と警備業務を行う契約を締結しようとするときは、当該契約を締結するまでに、内閣府令で定めるところにより、当該契約の概要について記載した書面をその者に交付しなければならない。」としている。契約前書面に記載しなければならない事項の内、機械警備に関する項目を記入例にならって下表の空欄を埋めよ。

**【解答欄】**

イ	基地局及び待機所の所在地
ロ	盗難等の事故の発生に関する情報を感知する機器の設置場所及び種類その他警備業務用機械装置の概要
ハ	待機所から警備業務対象施設までの路程(当該路程を記載することが困難な事情があるときは、基地局において盗難等の事故の発生に関する情報を受信した場合にその受信の時から警備員が現場に到着する時までに通常要する時間)
ニ	送信機器の維持管理の方法

2. 機械警備業務の基地局に備えるべき法定書類が 6 種類あるが、その内「即応処理カード」について内容を説明せよ。

**【解答欄】**

警備業務対象施設の名称及び所在地の記載と警備業務対象施設ごとに、待機所から警備業務対象施設までの路程及び基地局において、盗難等の事故の発生に関する情報を受信の時から警備員が現場に到着する時までに通常要する時間を記載する。

上記の 2 項目は、同一の書面に記載することが妥当であり、「即応処理カード」と表示する。

待機所名、距離・所要時間、対象施設名・施設住所、目標と路程、施設業種・施設構造・施設面積、緊急連絡先を記載する。

選択する場合は右空欄に○  
印を付ける。

**B 問題－4（設計関連）**

**解答例**

出入管理設備は、認識した ID 情報をあらかじめ登録された情報と照合・判定して、電気錠などの制動部(ゲート装置)を制御するものである。

制御機能には、ID 情報を単に登録されているかを照合するだけでなく、認証するために種々の条件を付けることがある。

以下の制御機能について説明せよ。

**【解答欄】**

制御機能名	説明
アクセス時間制限機能	登録されている人や制御対象となるゲート装置ごとに通行を許可する曜日や時間帯を設定する機能。
連続解錠時間設定機能	通常は認証して入室するが、ある一定時間帯のみ認証手続きなしに入室を可能とする機能。アクセス時間制限機能の一部として組み込まれることもある。
アンチパスバック制御機能	同一カードで複数の人が連続して入室することを禁止する機能。扉の内外に認識装置を設置し、入室時退室時ともに認証操作をさせて入退室を行わせる。矛盾した行動をとると扉などの解錠を拒否し異常事態として管理者へ通報するなど共連れなどを防止することができる。
二人在室制御機能	無人の部屋への入室は二人以上で続けて入室操作を行わないと入室できない。二人だけしか在室していないときには二人続けて退室操作を行わないと退室できないように制御する機能である。
インターロック制御機能	出入管理の分野では、制御の対象となる部屋に前室を設け、前室の内外の扉が同時に開かないように制御することをいう。